

林徳寺だより 第二十九号

# 無量壽

平成28年1月1日  
浄土真宗 本願寺派  
林徳寺 発行  
025 - 276 - 3456

## 浄土真宗物語 23

文明七（一四七五）年八月下旬、蓮如上人はそれまで五年間住んで、浄土真宗の布教に努めておられた、吉崎（現在の福井県あわら市吉崎）を退去されました。

これは、あまりに浄土真宗の信者が増えてしまったため、応仁の乱によって天下が二分された東軍西軍の対決、加賀の守護・富樫一族の内紛に巻き込まれてしまうこととなり、それに関与しないようにするためであったと思われます。

その後蓮如上人は、京都郊外の山科（京都市山科区）に、本願寺の再興を目指されました。

文明十（一四七八）年から工事を始め、約六年の歳月をかけて、文明十五年に山科本願寺は完成しました。

この本願寺は、周囲には堀と土塁を築くなどお城を思わせる作りだったようです。その跡地には現在山科別院が建てられています。二〇〇一年に団体で本山参拝旅行を実施した折には、この山科別院を参拝いたしました。



山科別院

ようやく

京都近くに  
本願寺を再  
興され、い  
よいよ親鸞  
聖人のお木

像（御真影

さま）を安

置しようと、京都の本願寺を焼かれて以来

預かってもらっていた、三井寺（滋賀県大津市園城寺町）に返却を申し出たところ、三井寺はそれを認めず、「どうしても返してほしければ人間の首一つとなら応じる」という返事でした。

蓮如上人は大変困られたようですが、源右衛門・源兵衛という篤信の漁師親子がこの話を聞いて、父・源右衛門が息子・源兵衛の首を持って三井寺へ行き、息子の首を差し出したそうです。それでも三井寺は「もう一つ足りない」と詰め寄りました。もとより覚悟の父は「自分の首を取ってくれ」と応じると、さすがに三井寺も親子の殉教心に感動し、御真影さまと源兵衛の首を返したと言います。

滋賀県大津市本堅田の光徳寺には、この源兵衛の頭蓋骨が、今も安置されています。

（続く）

## 伝灯奉告法要

浄土真宗本願寺派 本願寺（西本願寺）  
では、平成26年6月6日、御門主が変わら  
れました。

これまでは大谷光真様（即如上人）  
が御門主として、我々を導いてくだ  
さいました。平成6（一九九四）年  
には林徳寺にもおいでくださり、親  
しくお話をしてくださいました。



即如上人の御法話



即如上人 御巡回記念 平成6年7月7日 林徳寺

まだ即如上人はお元気でられる  
のですが、次の世代をお育てになる  
には、今譲るべきだとお考えになら

れたのでしよう、ご長男の光淳様（専  
如上人）に門主の座をお譲りになり  
ました。

専如上人は、親鸞聖人から数えて  
第25代目の門主でおられます。

この歴史的な出来事を、阿弥陀如  
来と親鸞聖人の御前に奉告するため  
の法要が『伝灯奉告法要』です。

平成28年10月から翌年5月まで  
の間、80日間に渡って行われる法要  
ですが、私たち新潟組の寺院では、  
平成29年5月29日（月）からの二泊  
三日で、団体参拝をしたいと計画を  
しています。

日程は確定ですので、是非この間  
のスケジュールを空けておいていた  
だきますよう、お願いいたします。